津山城百聞録

～育子院設置計画～

江戸時代末期の津山藩において、西洋書から得た最新の知識をもとにして、孤児院の建設が計画されていたとしたら、それは画期的なことではないでしょうか。『老人伝聞録』という資料に、そうした興味深い記事があります。

天保の末年ごろ、津山藩主松平斉民（なりたみ）は西洋書を読むうちに、ロシアには養生院（ようじょういん）と育子院（いくしいん）があることを知ります。津山藩では、老人や弱者を収容する養生院に相当する施設はないものの、老人や弱者である鰥寡孤独（かんかこどく）（身寄りのない人）に対する支援は実施されていました。また、赤ん坊の養育費扶助制度もありましたが、間引きや捨て子に対するさらに進んだ施策として、孤児院が立案されるまでには至っていませんでした。

斉民は町奉行馬場五郎平を呼び寄せ、西洋書を見せて、この育子院設立についての考えを問いました。馬場はその内容を知るや、直ちに必要性を認識し、計画図面の作成に着手しました。馬場の育子院計画は概ね次のようなものでした。

建物の中央に役人たちの部屋を配置して、四方に通路が延びるようにします。その通路の両側に、3～4畳の小部屋をいくつも配置します。そして、部屋ごとに乳母（うば）を1人か2人置いて世話をします。また所々に7～8畳の部屋も設けて、乳離れした子どもの世話に、老婆2人があたります。

施設の外には、捨て子を安全に引き受ける設備を設けておき、そこに捨て子があれば院内に引き入れて養育します。それぞれの部屋の戸口に、何年何月からの養育かわかるようにしておき、もし、親が確認に来た場合にもわかるようにします。

成長すれば、男の子は何か小用をさせて少しでも稼がせ、女の子は子守の手伝いをさせるつもりでした。養子にしたいという希望があれば、養子に出し、そのまま院内で成長したら、大部屋に置いて手に職を付けさせて、いずれは結婚など独立していけば良いとします。

これらの設立に必要な経費は寄付を募り、おもに建設費に充て、残金で育子田を購入して院に付属させ運営費に充てます。施設の管理には大年寄や町年寄などがあたり、同心組が昼夜見回りにあたります。

このように大方の計画はできていたのですが、馬場が異動により町奉行職を離れると、馬場からの申し送りはあったらしいのですが、残念ながら、そのまま立ち消えになってしまったということです。

▲町奉行御用日記
（馬場五郎平が町奉行のときに記したもの）

つやま広報 6月
平成18年 2006 620号

編集・発行（毎月10日発行）
津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
TEL 0868-23-2111(代) FAX 0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
http://www.city.tsuyama.okayama.jp/

つ・ぶ・や・き 編集室

実は今までホタルの写真をちゃんと撮れたことがありません。昨年はうわさを聞いて久米地域まで出かけたものの、その日に限って現れてくれず撃沈。今年こそ15ページの記事を参考にがんばります！後は腕だけ。（e）

梅雨の増水を前に、市役所南側を流れる川の砂地からアイガモの卵を救出。あれからちょうど1年。先日、その卵からかえった2羽の引き取り先「ドイツの森」に行ってきました。大きくなって元気に歩く姿を目にし、ホッと安ど。（X）

5月から広報担当になりました。パソコンの普及とともに、写真、文書のコピー、貼り付けなど、原稿作りはとても便利に。それにひきかえ、国語力の低下を痛切に感じます。この仕事を機会に改めて勉強しなくては…。（元）

4月中のひとの動き

人口	111,095人（前月比＋184）		
男	53,034人（同＋103）		
女	58,061人（同＋81）		
世帯	43,286世帯（同＋223）		
転入	644人	転出	476人
出生	87人	死亡	71人

（5月1日現在）

PRINTED WITH SOY INK
R100
広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください